

## 「未来への流れ」

(第四十四回)

森光子さん主演の「放浪記」を、東京の芸術座で観た。描かれるのは困難を乗り越え強く生きる林芙美子の半生。人生の厳しさや温かさが満ちあふれた舞台である。

大女優のオーラを肌で感じ、メリハリの利いた演技に感銘を受けた。中でも「でんぐり返し」する場面には拍手喝采。あれほどダイナミックな回転をして、本当に大丈夫だろうかと、と医師の私は少し心配に思ったほどだ。

放浪記は一九六一年の初演から四十二年間続き、先日一六〇〇回を達成した。前人未到の記録を今なお更新中。まさに演劇界の金字塔と言えよう。これは、比叡山の僧侶が行う千日修業にもたとえられる。継続とは簡単なようで実は最も

# 健康のススメ

## 板東 浩

難しいもの。真剣勝負で心を磨き、自己管理で身体を鍛えていかねばならない。こうした歴史の陰には、森さんの研究心や集中力、一日も欠かさぬトレーニングがあるという。

今年はずいぶん芙美子の生誕一〇〇周年。かつて、芙美子は徳島を訪れたことがある。そのとき列車の車窓から吉野川を眺め、美しさを絶賛したのだ。徳島が誇る四国三郎の流れはゆったりと雄大。止まることなく淀むことなく、未来へとつながっていく。

そういえば、森光子さん主演の映画「川の流れのように」が以前に上映された。テーマは高齢者の生きがい。私たちはいつまでも、心意気やひたむきさを持ち続けたいものだ。単に流されるのではなく、強く逞しく自分で流れを作っていくから。

(医学博士・内科医師)